

議会活動、地元活動に全力投球!



函館市での北海道植樹祭に参加



地元町内会の花いっぱい運動に参加



新入学児童への街頭交通安全啓発



団体政策懇談会



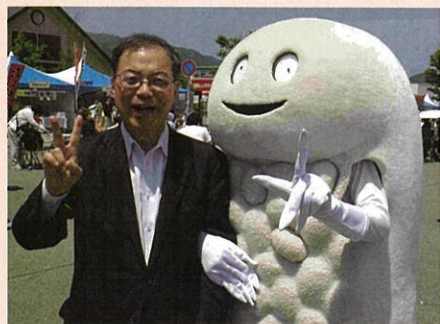
向山じゅん衆議院議員と大雨被害状況対策確認



鈴木直道知事と地元谷口精光園視察同行



鈴木直道知事と共に開発予算中央要望



グルメだよ!全員集合in北斗2025



北斗市音楽祭



北斗市商工観光まつり

「あさひかわ菓子博」開会式に出席

国内最大のお菓子の祭典、全国菓子大博覧会「あさひかわ菓子博2025」が、令和7年5～6月に開かれ、開会式に出席しました。会場では伝統の技を駆使して制作された工芸菓子や、お菓子の製造過程を紹介するプロジェクトマップが公開されました。食産業の振興により地域を元気にできるようしっかり働いてまいります。



道政だより

令和8年新春号

令和8年1月発行

北海道議会議員

たきぐちなおと

滝口 直人

活力あふれる北斗の創生へ 一次産業を活性化 ～確かな未来へ～

ごあいさつ

日頃より私の政治活動に対し、力強い後押しを賜り心より感謝申し上げます。

令和7年第4回定例会(令和7年11月26日～12月12日)では、所属する自民党会派の代表格質問に立ち、本道のエネルギー政策や地域経済、道民生活にとって極めて重要な泊原子力発電所の再稼働について鈴木直道知事にただし、同意表明につながる答弁を引き出しました。再稼働に向けた方向性が明確になったことで、今後の電気料金引き下げや需要の増大が見込まれる電力の安定供給、さらには新産業の創出など本道経済や私たちの暮らしへの好影響が期待されます。

一方で、人口減少や気候変動などを背景に、待ったなしの課題が山積しています。北海道が日本の食料安全保障を支え続けるために必要な農業振興では、パワーアップ事

業の来年度以降の継続について知事から具体的な取り組みを進める旨の答弁を得ました。また、秋サケの持続的な資源づくりが懸念される現状を踏まえ、早期の資源回復に向けた対策強化を促すなど、本道を支える一次産業の振興を強く求めました。

さらに、ヒゲマ対策の強化や流域治水などの重要課題についても活発に議論しました。詳細は中面の代表格質問の概要をご覧ください。

本年も地域の皆さまの声を伺い、道政に反映させるべく全力を尽くして取り組んでまいります。皆さまのご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、さらなるお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

北海道議会議員 **滝口直人**

議員提案として 全国初の「カスハラ防止条例」制定に貢献

顧客による理不尽な要求や暴言などの「カスタマーハラスメント(カスハラ)」を防ぐための道条例が道議会で成立し、令和7年4月から施行されました。カスハラ条例の制定は東京都に次ぐ全国2例目で、議員提案の形で条例ができたのは初めてです。

条例づくりを主導した自民党会派内プロジェクトチームのメンバーとして、私、滝口直人も議論に参加しました。カスハラは飲食店、ホテル、医療・介護施設、交通機関、役所、電話窓口など、ありとあらゆる場所で発生しており、条例の趣旨を多くの方々に理解してもらえるよう周知し、多様な価値観を認め合う社会づくりを進めていきます。



プロフィール

- 昭和30年 上磯町生まれ
- 昭和43年 上磯小学校卒業
- 昭和46年 上磯中学校卒業
- 昭和49年 北海道中部高校卒業
- 昭和54年 小樽商科大学商学部卒業
- 平成14年 上磯町総務課長
- 平成18年 北斗市総務課長
- 平成20年 北斗市市民部長
- 平成22年 北斗市副市長
- 平成31年 北海道議会議員に初当選
- 令和 5年 北海道議会議員2期目当選

●現在、道議会自民党・道民会議議員会副会長、同総務常任委員会理事、同新幹線・総合交通体系対策特別委員会理事、自民党道連広報委員会副委員長、同総務会常任総務、同政務調査会副会長、同選挙対策委員会副委員長

北海道議会議員 滝口直人事務所

〒049-0161 北斗市飯生2丁目8-1 アピアビル1階D号室
TEL(0138)86-5518 FAX(0138)86-5519
ホームページ <https://www.tagiguchi-naoto.jp>
E-mail: tagiguchijimusyo@hotmail.or.jp



泊原発再稼働の知事同意に向けた姿勢引き出す!

令和7年第4回北海道議会定例会 代表格質問

令和7年11月28日、第4回定例会において自民党会派の代表格質問に立ち、泊原子力発電所の再稼働や一次産業の振興、流域治水、ヒグマ対策をはじめとする課題について議論を展開し、道の取り組みをただしました。泊原発の再稼働を巡っては、その後の鈴木直道知事の同意表明につながる「原発の活用は当面取り得る現実的な選択」との答弁を引き出しました。

◆泊発電所について

滝口議員 泊原発3号機の再稼働は、本道のエネルギー政策や地域経済、道民生活に直結する極めて重要な課題。道は後志管内での住民説明会、資源エネルギー庁との共催による道内6圏域での説明会など、道民理解の促進に努めてきた。道議会では連合審査会を設置し関係機関の参考人への質疑を行い議論を深めた。立地自治体の首長が再稼働に同意した状況を踏まえ、泊発電所3号機の再稼働をいつ、どのように判断するのか。知事の見解を伺う。

鈴木知事 地元のご判断を重く受け止める。私としては、泊発電所3号機が新規規制基準への適合を認められ、加えて再稼働により電気料金の引き下げが見込まれ、電力需要の増加が想定される中で安定した電力供給が確実になり、脱炭素電源の確保により道内経済の成長や温室効果ガス削減につながるなど、原発の活用は当面取り得る現実的な選択と考えている。今後、泊発電所を訪れて安全対策を直接確認し、今定例会での議論を踏まえ最終判断する。

滝口議員(指摘) わが会派として、知事が示した考え方を評価する。早期に再稼働の方向性が示されることで、脱炭素電源の安定供給や電気料金の引き下げなどの見通しが明確になり、企業の投資判断の予見性が高まり、道内企業の事業拡大や新たな投資を促し、新産業創出や雇用拡大にもつながることが期待される。知事の再稼働に向けた適切な判断を期待する。

◆ヒグマ対策について

滝口議員 国は11月、「クマ被害対策パッケージ」を



決定し、警察によるライフル銃を使用した駆除、自衛隊や警察のOBへの協力要請を行うとしたほか、狩猟免許を有する自治体職員(ガバメントハンター)の人件費や資材支援、春期のクマ捕獲など個体数管理の徹底、電気柵による防護強化や河川の生息環境管理などの対策にかかる費用を速やかに支援するとした。道内では、春期管理捕獲の実施が今年は47市町村にとどまり、緊急銃猟についてもマニュアル策定や事前訓練を実施した市町村は一部にとどまる。ヒグマ対策にどう取り組んでいくのか。

鈴木知事 ヒグマ対策推進会議でパッケージの情報共有を行ったほか、今定例会に春期管理捕獲の人材確保や自衛隊の出動を想定した体制整備などの補正予算を提案した。今後、国の支援策も活用し、緊急銃猟に備えた実施事例の提供やマニュアル作成支援とともに、改めて春期管理捕獲の実施を市町村に働きかけるなど、実効性の高いヒグマ対策を迅速かつ着実に進める。

◆本道農業の振興について

滝口議員 道は農家負担の軽減を図るパワーアップ事業を措置し、基盤整備の促進を図ってきたが、現在の対策は本年度で終了する。この対策で区画整理や暗きょ排水の整備などが着実に進み、地域からは来年度以降も継続を望む声が多数聞こえる。今後どのように進めていくのか。

鈴木知事 国の予算編成の動向を注視しつつ、農業農村整備の計画的かつ着実な推進に必要な予算の確保に努め、今後とも農業者が必要な整備に積極

的に取り組めるよう、パワーアップ事業を継続したいと考えており、具体的な内容について取りまとめている。

◆秋サケの資源対策について

滝口議員 秋サケの来遊数減少に伴い、人工ふ化放流に必要な種卵の確保に影響が生じる恐れがあり、将来にわたる継続的な資源づくりが心配される極めて深刻な事態。サケ定置漁業の経営や漁業就業者の確保、本道水産業への大きな影響が危惧され、秋サケ資源対策を速やかに講じる必要がある。どのように取り組んでいくのか。

鈴木知事 物価高騰の影響も注視しながら、「資源対策の基本方向」に基づき、10月以降に来遊する資源づくりの強化などに取り組むとともに、速やかに全道の増殖事業団体や研究機関などによる「持続可能なサケ増殖事業検討会」を新たに立ち上げ、中期的な方針を検討するなど、秋サケ資源の早期回復に向け取り組みを一層進める。

◆気候変動を踏まえた河川整備について

滝口議員 令和7年は私の地元を流れる久根別川において大雨により農地が冠水したほか、道東で道

内初の線状降水帯による浸水被害が発生した。河川管理者だけでなく流域自治体や農業関係者などで構成する「流域治水協議会」を設置し、流域全体で水災害を防止・軽減する流域治水の取り組みが進められているが、堤防整備や整備後の河道の維持などの河川整備は浸水被害を軽減する上で最も重要。今後、河川整備などをどのように行うのか。

鈴木知事 河川の氾濫による被害軽減には、河川の流下能力の確保が重要。道はこれまで、河道の掘削や堤防の整備河道内の樹木伐採などに努めてきた。気候変動に伴う降雨量の増大を考慮した治水計画の見直しや「流域治水」を進め、久根別川をはじめとした河川の整備と維持を着実に進める。

その他の質問項目

- 財政運営 ●地震・津波対策 ●北海道創生総合戦略
- 北海道グローバル戦略 ●ケアラー支援
- 子育て支援施策 ●ギャンブル等依存症対策
- 統合型リゾート ●宿泊税
- 北海道半導体・デジタル関連産業振興ビジョン
- 水産物の資源管理など
- 改正給特法等を踏まえた対応 ●部活動の地域展開
- 教職員の不祥事の防止への対応

令和7年第3回北海道議会定例会 予算特別委員会

令和7年9月の予算特別委員会では、漁業や林業の課題について所管する水産林務部と議論したほか、さらなる発展が期待されるワイン産地の形成について経済部の姿勢をただしました。

〈質問項目〉 ・ホタテガイ漁業 ・資源管理 ・ブルーカーボンの推進 ・森林由来クレジット ・道産建築材の利用拡大
・森林法における伐採届 ・ワイン産地の形成

総務常任委員会

- ・8月5日 災害対策
- ・9月2日 災害対応の「振り返り」を踏まえた防災体制の強化

予算編成を前に地域の要望を聴取

団体政策懇談会を開催

道議会自民党議員会による「団体政策懇談会」が令和7年10月に開催されました。経済、一次産業、医療・福祉、建築・土木、運輸・教育など計45の団体代表者からは物価高騰や人手不足への対応を求める声が多数寄せられ、要望内容を道政に反映させるため、全力で取り組んでいくことを確認しました。



新幹線・総合交通体系対策特別委員会

- ・9月3日 北海道運輸交通審議会
第2回重点戦略小委員会の開催結果

患者の社会復帰に向けた医療体制を確認

北大司法精神医療センターを視察

令和7年8月、同僚議員とともに北大病院附属司法精神医療センターを視察しました。同施設では精神障がいにより犯罪行為を行い、不起訴または無罪となった人に対し、専門的な治療やサポートを行っています。施設内を見学し、経営上の課題を確認しました。精神障がい者の社会復帰や再犯防止に向けた環境整備に活かしていきます。

